

2020年4月12日

当院で心不全入院された患者さん・ご家族様へ

研究へのご協力をお願い

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、日常診療で得られた以下の診療情報を研究データとしてまとめるものです。研究のために、新たな検査などは行いません。この案内をお読みになり、ご自身またはご家族がこの研究の対象者にあたると思われる方で、ご質問がある場合、またはこの研究に診療情報を使ってほしくないとのご意思がある場合は、遠慮なく下記の担当者までご連絡ください。

ただし、すでに解析を終了している場合には、研究データから情報を削除できない場合がありますので、ご了承ください。

【対象となる方】 2016年7月～2019年12月の間に心不全で入院された患者様のうち、トルバプタンで加療された75歳以上の方

【研究課題名】 高齢心不全患者における早期トルバプタン投与と入院期間の関連

【研究責任者】 南長野医療センター 循環器科 医師 鈴木 翔

【研究の目的】 心不全に対する薬物加療としては、アンジオテンシン変換酵素阻害薬、 β 遮断薬、ミネラルコルチコイド受容体拮抗薬、利尿剤などが使用されます。利尿剤は腎臓に働きかけて尿量を増やすことで、体に貯留した余分な水分を排泄する役割を持っており、心不全で入院となった患者の約95%で投与されています。トルバプタン（バソプレシン受容体拮抗薬）は比較的新しい利尿薬であり、従来のループ利尿薬やサイアザイド系利尿薬と比較して腎保護作用や急性期の利尿効果に関する報告が散見されますが、未だ確立されたエビデンスは存在しません。心不全増悪因子の1つであるバソプレシンの拮抗薬であるトルバプタンの効果や適応についての報告は未だ十分でないのが現状です。トルバプタンの急性期の利尿効果に着目して、高齢患者様に対するトルバプタン投与のタイミングと入院期間の関連について報告することが本研究の目標です。

【利用する診療情報】

診断名、年齢、性別、入院日、入院期間、既往歴、家族歴、生活歴、内服歴、予後に関する情報（死亡や他院への入院歴など）、心不全などの入院歴、心臓手術歴、ペースメーカー・植え込み型除細動器留置の有無、身長、体重、肥満度、体表面積、血圧、脈拍、酸素濃度、心不全重症度・心機能分類、心電図：不整脈発祥の有無を含む、心エコー図検査、採血デ

一夕：血液一般検査、生化学検査：腎機能・肝機能・栄養・電解質・糖尿・脂質・心筋/筋性酵素、脳性利尿ペプチド(心不全マーカー)

【研究期間】 研究許可日より 2023 年 12 月 31 日まで（予定）

【個人情報の取り扱い】

お名前、住所などの個人を特定する情報につきましては厳重に管理を行い、学会や学術雑誌等で公表する際には、個人が特定できないような形で使用いたします。

【問合せ先】 南長野医療センター 循環器科 医師 鈴木 翔

電話 026-292-2261(代表)